

折に触れ 四字熟語

NO. 74 〔寸草春暉〕 すんそう しゅんき

< 意味 > 父母の恩・愛情は大きく、それに子がほんのわずかさえ報いるのがむずかしいことのとえ。

< 出典 > もうこう ゆうしぎん
孟郊「遊子吟」

	遊子吟	孟郊
慈母手中線	<small>じぼ</small> 慈母	<small>しゅちゅう せん</small> 手中の線
遊子身上衣	<small>ゆうし</small> 遊子	<small>しんじょう い</small> 身上の衣
臨行密密縫	<small>こう のぞ</small> 行に臨み	<small>みつみつ ぬ</small> 密密に縫う
意恐遲遲歸	<small>い</small> 意に恐る	<small>ちち かへ</small> 遲遲として歸らんことを
誰言寸草心	<small>たれ</small> 誰か言ふ	<small>すんそう</small> 寸草の心
報得三春暉	<small>さんしゅん き</small> 三春の暉に報い得んと	

通 釈： 慈愛深い母は、針糸を手にして
 他郷に遊学する、わが子の身につける衣服を縫っている
 出発に際して、一針一針に思いをこめ、縫い目細かに、針を運んでいる
 (だが) 心の中では「卒業がおくれることがあっては」と案じている
 いったいだれが言うのだ、親を思う子どもの心が
 子を思う親心に、報いることができるなどと (そんなことはありはしない、いくら子ども
 が親を思うたとて、子どもを思う親心には、とても及びはしないのだ)

語 釈： 「寸草」はわずかに伸びた丈の短い草。子の、親の恩に報いようとするわずかな気持ちの
 たとえ。「春暉」は春の暖かい陽光。親の子に対する愛情のたとえ。「線」は糸。「遊子」は
 旅人、遊学する人。「三春」は孟春 (初春)・仲春・季春 (晩春)。

一 言： 春シリーズ その6
 母親が亡くなってから50余年が経過しますが、この四字熟語を読むと、いまだに母親の
 「春暉」を思い、そしてわが「寸草」を悔やみます。私に孝心が薄かったのか、それとも
 世の常なのでしょう。

参照文献： 角川書店「中国名詩鑑賞辞典」 岩波書店「四字熟語辞典」